



踊りでつなぐ地域の輪 (おがわ秋祭り)



議会だより

発行 高知県佐川町議会

9月定例会

contents

目次

平成25年度決算を認定 2

9月補正予算 災害復旧に1億2906万円 8

一般質問 台風災害に多くの質問 10

あれはどうなったか (防災メール導入を) 19



年々にぎわう おがわ秋祭り

9月定例会

平成25年度

一般会計・特別会計決算を認定

国保会計きびしい状況

9月定例会は、5日から11日までの会期で開かれました。

平成25年度決算の認定のほか、平成26年度補正予算をはじめ、条例改正など議案14件、報告8件、諮問案3件、意見書4件を審議し、採決の結果、賛成全員で全件可決しました。

一般質問には9人の議員が登壇し、町政全般について、活発な論戦を展開しました。

一般会計

歳入歳出ともに2億円余り増加している。歳入

は地域の元氣臨時交付金等の国庫支出金や県支出金の増加であり、歳出は

地方道路交付金事業や病院の耐震化事業などで増加している。

(詳しい内容はP4参照)
実質収支では1億7千万円の黒字である。

また、滞納整理も進んでいる。

病院事業

単年度では、4億2361万円の赤字決算となっている。これは、耐震化事業完了に伴い、現金

支出を伴わない建物の除却費用等、特別損失を計上したためである。

水道事業

前年に引き続き、1千3百万円余りの黒字となっている。

これは今後の施設の維持管理等の費用として使われる。

国民健康保険事業

歳入、歳出ともに18億7千万円となっている。収支は0である。

これは赤字を基金からの繰り入れで補っているため、実質的には赤字

である。基金の状況によつては、保険料への影響が予測される。

介護保険事業

歳入は16億3千万円、歳出は16億2千6百万円となっている。要支援については国の制度改革により町の責任が重くなるとともに重要性が増してくる。



平成25年度各会計の決算状況

歳出

総額120億9,411万円

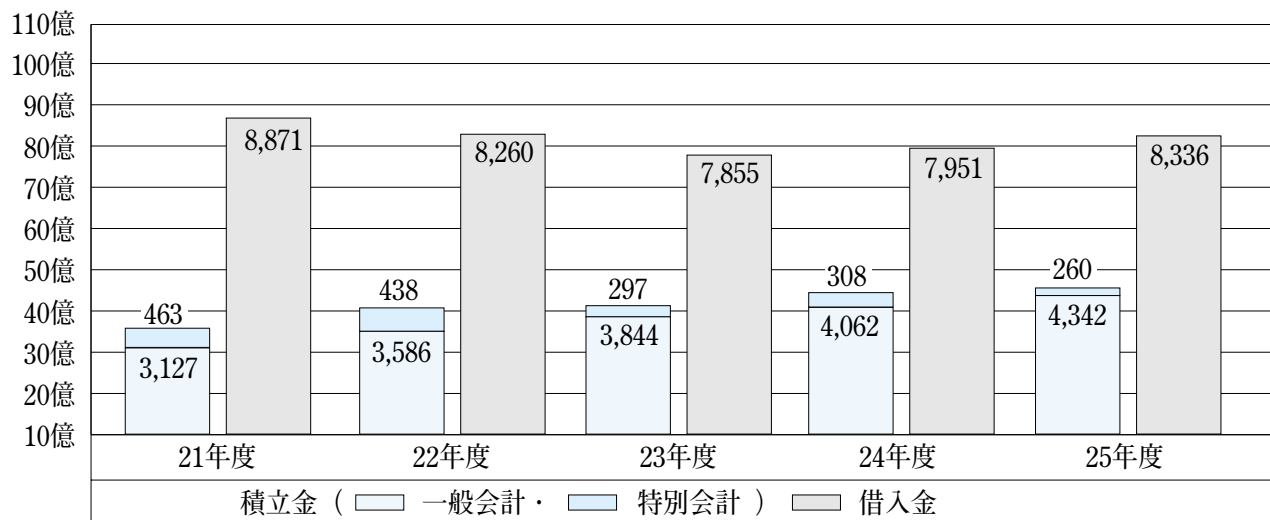
(単位:円)

会 計 名		決 算 額			
		歳 入	歳 出	翌年度繰越額	実質収支額
一 般 会 計		64億3,444万	61億5,753万	1億507万	1億7,184万
特 別 会 計	国民健康保険	18億6,828万	18億6,828万	0万	0万
	住宅新築資金等貸付事業	3,828万	232万	0万	3,596万
	学校給食	5,329万	5,329万	0万	0万
	農業集落排水事業	2,114万	2,114万	0万	0万
	特定環境保全公共下水道事業	1,076万	1,076万	0万	0万
	介護保険	16億3,000万	16億2,591万	0万	409万
	後期高齢者医療	2億1,558万	2億1,299万	0万	259万
	水道事業	1億5,414万	1億4,030万	0万	1,384万
	病院事業	15億7,798万	20億0,159万	0万	△4億2,361万
総 合 計		120億0,389万	120億9,411万	1億507万	△1億9,529万

※水道・病院事業特別会計は収益的収支を記載

積立金・借入金の推移

(単位:百万円)



※借入金は、特別会計・一般会計の合計金額を記載

町の基金

町の基金(貯金)の状況は、平成25年度には2億3千万円余り増え、年度末現在高は46億円余りとなっている。

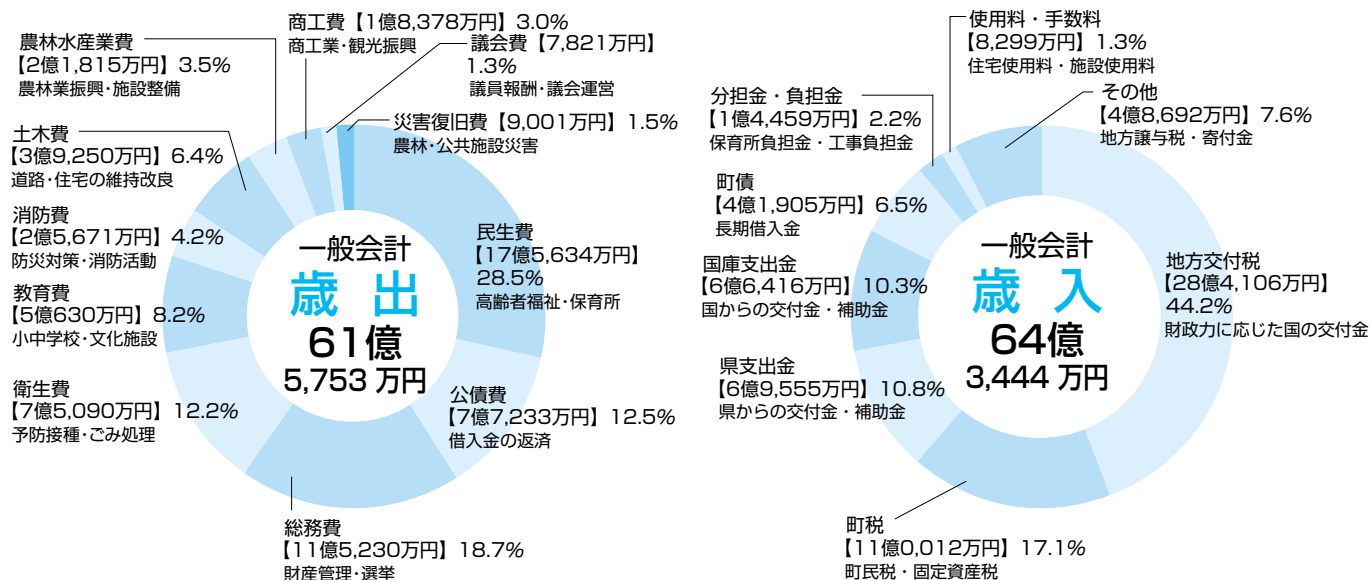
町の借入金

一般会計では、借入金よりも償還金のほうが多く、2億5千万円余り減少した。
特別会計では、高北病院の耐震化に伴い借入金が6億5千万円余り増加した。全体としては4億円程度増加し総額83億4千万円余りとなっている。

歳入歳出の内訳は下記の表のとおりです。

どう生かされた？みんなのお金

借入金の返済減少する



- 市町村の財政状況を表す①財政力指数 ②経常収支比率 ③実質公債費比率で見ると
- ①財政力指数0・29
佐川町では自前でまかなう財源が約3割しかありません。
 - ②経常収支比率86・0
昨年度89・0で3ポイント好転し、使い道を限定されないお金が増えています。
 - ③実質公債費比率11・8
借入金の返済額は少なくなり5年前の15・7と比較すると、3.9ポイント好転しています。

監査意見(要旨)

監査委員
上田 益 英
徳 弘 初 男

平成25年度一般会計決算は、前年度と比較して歳入で2億4,958万円、歳出で2億5,777万円の大幅な増額となっている。歳入では、地域の元氣臨時交付金などの国庫支出金や集落活動センター事業、木質資源利用促進事業、介護基盤緊急整備事業等の県支出金の増加が、歳入増加の要因である。歳出では、総務費、民生費、衛生費、商工費、土木費で増加しており、主な要因は、庁舎空調整備工事、公共施設整備基金積立金、障害者自立支援事業、公立病院の耐震工事に伴う補助、斗賀野町営住宅建設事業などによるものである。一方、消防費、教育費、公債費は減少している。

特別会計の決算の状況においては、単年度で4億2,361万円の赤字決算となっている。これは、耐震化事業に伴う取り壊し建物の除却費用等の特別損失を計上したためで、現金支出を伴うものではない。

未収金の状況は、一般会計、特別会計を含めると、収入未済額1億3,648万円で、前年度より4,782万円減少している。平成25年度の機構改革で、収納業務の一元化を図り、滞納整理を強化するため収納管理課が設置された。徴収率等の決算状況を見ると、その成果が徐々に表れていると考えられる。

今後においては、税収等収入の大幅な伸びが期待されない本町では、従前以上に慎重な財政運営を強いられることが予想されることから、効率的かつ効果的な行政運営と財政健全化に努め、さらなる町民福祉の向上のため努力されたい。



平成25年度 決算質疑

一般会計

財政の状況はどうか

森議員 財政健全化、財政の状況について聞く。
村田副町長 実質公債費比率は平成23年度から好転しており、財政力は、県内では中の上くらいだ。

上町整備の総額は

坂本議員 観光振興のため上町整備に今まで使った費用、今後経常的に必要な費用を聞く。

片岡チーム佐川推進課長 今までにかかった費用は約3億2千万円、うち補助金が1億2千万円。これから維持のため必要な金額は年額3千6百万円程度と考えている。



整備された上町

報告案件

財政健全化判断

比率等の報告

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（財政健全化法）に基づき報告されたもので、一般会計等の実質赤字比率、連結実質赤字比率は黒字のため数値がなく、実質公債費比率11・8%、将来負担比率も数値がなく、早期健全化基準を下回っている。

また、水道事業、病院事業、農業集落排水事業、特定環境保全公共下水道事業特別会計の資金不足比率は、いずれも資金不足はなく健全であると報告を受けた。

条例制定・改正

佐川町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例

佐川町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例

佐川町いじめ問題調査委員会条例

佐川町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

人事

教育委員会委員

山崎 徳彦 氏
佐川町乙1869番地

固定資産評価審査委員会委員

北添 秀紀 氏
佐川町加茂3397番地

固定資産評価審査委員会委員

横畠 安彦 氏
佐川町黒原3836番地3

9月定例会で決まりました

議会が

平成25年度 注目した事業

9月定例会において、認定した平成25年度各会計決算の中から、注目する事業を紹介します。

私立保育所 耐震化事業



3,184万円

県補助を活用し、花園、若草両保育園の耐震化工事費用の4分の3を補助しました。

飲料水供給施設 整備事業

3,203万円

四ツ白フスボリ地区に飲料水供給施設を整備しました。

ねんりんピック よさこい高知大会



1,228万円

平成25年10月に開催された“ねんりんピック高知2013”。本町では、ウォークラリー交流大会が実施され、全国から多くの方々の参加がありました。



黒岩中学校耐震化事業



9,540万円

黒岩中学校の校舎及び体育館の耐震補強工事や大規模改造工事を実施しました。

太陽光発電事業出資



3,033万円

新エネルギー対策の一環として、西佐川駅東側の公共下水道処理場予定地跡で、メガソーラー事業を実施するため、県・町・民間で共同出資しました。

役場庁舎空調工事



7,957万円

地球温暖化防止対策の一環として、庁舎空調設備を木質バイオマスボイラーに改修し、省エネ、CO2削減の取り組んでいます。

斗賀野町営住宅建設事業



1億1,945万円

斗賀野地区に6戸の町営住宅建設と進入路を整備しました。(一部26年度に繰り越しをし、6月完成)

平成26年度9月補正予算

(単位：円)

会 計 名		補正額	補正後の額
一般会計		2億452万	62億8,488万
特別会計	国民健康保険	1,753万	19億1,324万
	住宅新築資金等貸付事業	3,596万	3,876万
	介護保険	1,145万	17億7,094万
	後期高齢者医療	259万	2億1,688万

9 月 補正予算 ピックアップ

企画総務費

304万円

地域公共交通検討会の発足、住民ニーズ調査の委託費用。

霧生関公園建設事業

972万円

開発行為変更許可申請書作成のための委託費用。

地域おこし協力隊事業

3000万円

地域おこし協力隊員が居住する住宅の耐震化を実施する費用。

園芸振興負担金事業

363万円

トマトの共同出荷場に備えている機械が被災したため、修繕をするための補助金。

農林水産業施設災害復旧事業

1199万円

台風12号・11号で被災した農林関連施設の災害復旧費用。

公共土木施設災害復旧事業

6177万円

台風12号・11号で被災した公共土木関連施設の災害復旧費用。

がけくずれ住家防災対策事業

5530万円

台風12号・11号の影響で、崩壊の危険性が高まっている箇所の防災対策費用。



がけくずれ対策を

議案質疑

提出議案に対して、各議員から出された質問の主なものを紹介します。

補正予算

災害復旧工事の進め方

下川議員 昨年度は事業の進捗が思わしくなかった。本年度の災害復旧工事はどう進めていくか。渡辺産業建設課長 昨年度は円滑に実施できなかった。今年度の災害復旧に関しては管内で調整しながら、円滑に実施できるよう対応していく。

空き家活用促進事業の内容は

坂本議員 空き家活用促進事業について聞く。

片岡チーム佐川推進課長 国、県の補助金で、地域おこし協力隊の住居5軒を民間から借り上げ耐震改修工事を行う。

病院事業

資本金減額の理由は

中村議員 資本金減額の理由を聞く。

笹岡病院事務局長 資本金減額により減価償却費など現金の支出を伴わない累積欠損金を整理し、より実態に近い形とした。

松浦議員 当年度の特別損失について聞く。

笹岡病院事務局長 本年度4月新会計に移行したため一括計上した。

意見書

国にも申す

総理大臣をはじめ、
関係機関に意見書を提出

「森林・林業基本計画」の推進に係る意見書

(提出者 永田耕朗)

我が国では、その大部分が中山間地域に位置していることから、林業の振興を図ること、人口流出防止のダムの効果を果たすことになり、そのことが地方再生の原点になるとも考える。

よって、「森林・林業基本計画」の推進と平成27年度予算措置を強く国に要望する。

(要旨)



林業振興は地方再生の原点

地域林業・地域振興の確立に向けた「山村振興法」の延長と施策の拡充に係る意見書

(提出者 永田耕朗)

山村振興法の期限が平成27年3月末に切れることから、山村地域の振興や地域林業の確立、そして就業機会の拡大や雇用の確保、若者定住等、今後、法を延長し、一層の施策の拡充を国に強く要請する。

(要旨)

手話言語法制定を求める意見書

(提出者 産業厚生常任委員 岡村統正)

平成18年に国連総会において「障害者権利条約」が採択され、平成20年に発効された。

日常生活、職場、教育の場で手話を使った情報の提供やコミュニケーションが保障され、社会に自由に参加できることを目指す「手話言語法」を広く国民に知らせ、自由に手話ができる社会環境の整備を国として実現する必要がある。

(要旨)

慎重な参議院選挙制度改革を求める意見書

(提出者 総務文教常任委員 西村清勇)

参議院選挙区を考えると、地方自治体の実情や歴史的・文化的・地理的条件を考慮すれば、都道府県を基本とすること以上に意味のある新たな選挙区単位を見出すことは困難であると考えられる。こうしたことに立脚して、参議院選挙制度改革については慎重に議論を進めることを要請する。

(要旨)

平成25年度決算

(単位：円)

会計名		歳入総額	歳出総額
一般会計		9億9,034万	9億2,199万
特別会計	特別養護老人ホーム	14億0,338万	12億4,464万
	養護老人ホーム	1億3,594万	1億1,377万
	障害者支援施設	2億1,905万	1億4,908万
	ふるさと市町村圏	3,023万	1,906万
合計		27億7,894万	24億4,854万

《組合長 諸般報告》

特別養護老人ホーム4施設の待機者数について、本年6月1日時点での調査を行った。重複申し込みを除いた待機者は、佐川町82人、越知町

高市北 広域 町村事務組合 議会

9月4日

47人、仁淀川町31人構成3町以外19人となっている。
消防・救急無線のデジタル化工事の進捗状況については、無線中継所の敷地造成と基礎工事が終わり、続いて無線タワーと局舎の設置を予定している。無線機器の製作も順調に進んでおり、12月末までに全ての工事を完成させる予定である。

地域包括ケアシステム ケア会議実施は

健康福祉課長 11月をめどにスタート

松浦 隆起 議員



9人が町政を問う

ここが聞きたい

地域で、高齢者が安心して暮らせる仕組みが「地域包括ケアシステム」だ。このシステムを構築していく上で欠かせないのが「地域ケア会議」だ。個別ケースから地域の課題を抽出する意味でも、この「地域ケア会議」は重要だ。この会議の実施は。

岡崎健康福祉課長 「地域ケア会議」は、11月をめどにスタートさせる予定だ。いろいろな専門職の方が、ケアプランについて、具体的に検証していく作業を行うことにより、課題がどこにあるのかを探っていく。



ケア会議に向けて

ふるさと納税 町外に発信を

町長 本町らしいあり方考える

今、「ふるさと納税」が注目をされ、着実な広がりを見せている。その大きな要因の一つが、寄付金のお礼に贈る特産品だ。この「ふるさと納税」を、寄付という枠を超え、地域の地場産品を町外に売り出し、本町の良さを発信し、観光へとつなげていくチャンスと捉え、取り組むべきだ。

堀見町長 会社や事業所の力も借りながら、本町らしい「ふるさと納税」のあり方、特産品の開発、本町のPR、それをトータルで考えて発信していきたい。第2弾、第3弾とふるさと納税の取り組みを考えている。

町長 観光協会が再発足し、観光振興に取り組み始めた。関係する職員の努力の実を結ばせるために足りないものは、プロの視点、経験、発想力である。現場の感覚を持った人にコンサルタントとして関わってもらい、実現性がある計画を作り上げる必要がある。

堀見町長 観光協会が昨年、発足したが、計画をどう進捗管理していくのか明確になっていなかった。今年度、実際に観光協会を運営したところのあり、外部の方にアドバイザーとして来ていただき、勉強をして、来年度から本町としてどう取り組んでいくのか、作り上げていきたい。

観光振興プロの視点で 積極的推進を

町長 外部の方に来ていただく



観光協会の今後の活躍は？



坂本 玲子 議員

子育てアンケートで、子育てに関する費用の軽減を望んでいる保護者が36%もいる。少子化対策のためにも、子育てしやすい町づくりは大事である。他の市町村ではさ

子育て支援策として 保育料の軽減を

町長 国、県の方針に沿って考える

さまざまな保育料軽減策が行われている。財政的支援も含め佐川町独自で何ができるのか。

堀見町長 子育て支援は重要な施策の一つとして考えているが、財政的支援については国、県の方針に沿って考えたい。多面的な支援の仕方、子どもたちの保育、教育の仕方を考えていく必要があると思う。



子育て支援は大きな課題

空き家の有効活用で 地域活性化を

町長 空き家再生事業を実施

空き家が増え、将来的には20%以上が空き家になるといわれている。全国的にも空き家対策事業が実施されている。危険な空き家は取り壊しをすすめ、まだ利用できる空き家については再生し、地域交流、福祉サービスの拠点、移住促進など地域活性化に役立ててはどうか。

また町として空き家対策の方針を決め、条例をつくり、積極的な空き家有効活用ができないか。

堀見町長 空き家の対策活用、危険の排除については今年5軒の空き家再生事業を実施する予定で、前向きに取り組み始めている。

空き家についての条例は今後研究し検討していきたい。



空き家も地域の資源です

臨時職員の賃金の 増額と基準作りを

総務課長 今後研究していく

職員数が他町村と比べて少なく、多くの臨時職員がいる。臨時職員の生活を守るという姿勢を持って、賃金を増額すべきだ。

横山総務課長 基準単価づくりは非常に大事なことだと思う。

今後、基準作りや、経験的なものをどうしていくかについては、近隣市町村とのバランスなども参考に研究していきたい。

また町として、初任給を基礎として臨時職員の基準を決め、資格が必要な職種については、その資格や経験に応じて賃金を上げていくことが必要だと思うがどうか。

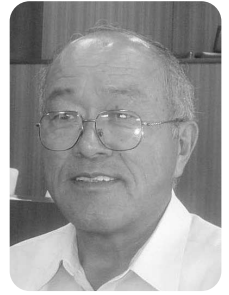
その他の質問
○国保税の資産割りについて

記録的な豪雨の台風12号・11号の来襲から得た教訓と、当町が今まで実施してきた災害対策の検証と、今後進めていかなければならない課題は何か。

台風の教訓と課題は

町長 整備、万全とは言い切れない

森 正彦 議員



堀見町長 台風の教訓は、異常と言われてきた雨や風が、当たり前に起こるという視点で、防災対策を考える必要がある。ハード面は、これで万全とはいえず、今後老朽化した構造物や橋梁の対策をしなければならぬ。

また、緊急性に対応したマニュアル、行動計画の検証、さらに自主防災組織とも連携をとって、その地域ならではの防災計画、行動計画を作っていく。

勝森山からの土石流 どう対処するか

産業建設課長 関係機関と連携をして対策を進める

勝森山からの土石流は、人家の近くまで迫り、また河川に土砂が堆積し氾濫の危険もあった。土石流が発生した勝森山鉱山の管轄は経済産業省、下部の山林は県森林環境部であるが、被害を受けるのは当町だ。町としてどう対処するか。

渡辺産業建設課長 山林の災害復旧は新たな被害を発生させないよう、県に要望しており、県は対策工事の検討に着手している。

鉱山は、国の指導を受けて、北側斜面地下水位の上昇リスクや降雨流入リスクの抑制といった対策をとっている。

今後、地元にとってよい復旧となるよう、関係機関と連携をとって対策を進めていきたい。



濁流が道路も田畑ものみこむ！

新図書館建設 どう考える

町長 来年度末までに方針決める

文教のまちづくりには図書館の充実が欠かせない。しかし、現在の図書館は施設も狭く蔵書も少ない。この図書館の現状をどう捉えているか。

また、新図書館の建設は、どのように考えているか。

川井教育長 施設が狭いことが第一の課題で、閲覧室、書庫、会議室、学習室等の整備充実が望まれている。図書購入費についても現状100万円程度で、全国の類似団体では年間500万600万円であることも承知している。図書の購入費の拡充には一層努力したい。

堀見町長 検討委員会を立ち上げ、できれば来年度末までには佐川町の新図書館のあり方について方針を決めたい。



土石流でえぐられた山肌



下川 芳樹 議員

自主防災組織の役員へ 帽子、制服の支給を

町長 実情を考慮して勉強していきたい

町の地域防災計画では、地域を自分たちで守る自助・共助の理念のもと、自主防災組織の育成に努めると定めている。

自主的な防災訓練や地域の要配慮者への支援活動などでは、自主防災組織役員の役割や責任も重くなる。組織をリードする役員が自覚し活動しやすい自印的な帽子、制服など支給してみてもどうか。

堀見町長 現時点では、制服とか帽子とか支給する考えはない。自主防災組織は自分のため、自分たちの地域のため、自分ごととして活動することが基本になると思う。

自主防災組織の役員も2年、3年、5年やる方もいるし、1年交代で変わることもある。そのあたりの実情を考慮して今後どうしていくか、勉強していきたいと考える。

霧生関へのヘリポート設置

具体的な計画は

町長 来年度完成を目指したい

霧生関の埋立土地利用については、先の6月議会でもヘリポート設置に向けて臨んでいきたいとの答弁であったが、今後の具体的な設置計画はどうか。

また、町内各地にヘリポートを設置すべく、離着陸可能な民有地を利用できる協定はできないか。

堀見町長 本定例会で開発許可の変更および委託費用を計上している。本年度中に変更計画を策定し、来年度ヘリポートの完成を目指したい。

横山総務課長 今後、ヘリコプターの離着陸場として活用可能な所があれば、所有者と協定を締結し積極的な活用を図っていききたい。



黒岩地区での防災訓練

経験ある専門職の 雇用に配慮を

総務課長 町に有用な職員の採用を実施

当時のような職員数の少ない町村では、毎年度の職員採用が難しくバランスのとれた年代層ではない。人員枠の少ない専

門職では専門性の継続が困難な状況がある。経験ある専門職の雇用に配慮して、採用条件を検討してはどうか。

横山総務課長 資格を持つ職員の中途採用等で、初任給の号給を上げた採用の仕方でも実施してきた過去もあり、今後においても町に有用な職員の採用を実施していきたい。

その他の質問
○障害者優先調達推進法に基づく本年度の調達方針について
○地区懇談会の開催状況について



命を救うドクターヘリ

町行政の羅針盤といえる総合計画策定は順調に進んでいるか。

総合計画策定は 順調か

チーム佐川推進課長 策定に向け進めている

中村 卓司
議員



片岡チーム佐川推進課長
本年度の6月から7月に
かけ町民に1000件の
アンケートを実施し、4
80件の回答があった。
結果については、でき次
第町広報やホームページ
に掲載する。
また、職員24名で策定
作業チームを作り、過去
10年間を振り返り財政、
教育、医療、福祉、暮ら
し、商業、環境等成果と
課題を抽出している。さ
らに、今後起き得る未来
の推定をして進めている。



計画策定作業チームの合宿研修

職員の評価を どうする

町長 評価制度を見直しする

職員は、公僕としての
サービスを十分に行って
いるのか。評価はしてい
るか。
堀見町長 職員は、10
0%全力で頑張っている。
佐川町は今まで独自の評
価制度を取り入れ評価し
ていた。
今後は評価制度を見直
し、職員が自発的で主体
的な目標を立て業務を行
うなかで、その仕事の取
り組みや出した結果に対
して適正な評価をしてい
きたい。

浸水想定区域 適正か

総務課長 今後研究する

春日川、柳瀬川の氾濫
が予測される。県と連携
し管理できているか。
防災対策の観点から、
町内各所でも危険が予想
されるところがあるが、
監督官庁に要望できない
か。

横山総務課長 流域避難
マップはホームページに
掲載されており、町内で
洪水予報区間に指定され
ているのは日下川流域だ
けで、春日川、柳瀬川は
浸水区域の想定がない状
況にある。

今後は、水位の上昇等
も非常に顕著になってお
り、両河川についても浸
水想定区域に示せないか
研究していく。
渡辺産業建設課長 台風
などの時には県とも連携
を取ってやっている。
堀見町長 町民の災害へ
の不安の声が想定だけの
話では、監督官庁へ要望
するのは問題があり難し
い。事実があれば確認し
調査した上で監督官庁へ
要望していく。



浸水想定区域の指定ではないが



岡村 統正 議員

台風12号で、全町に避難勧告を出すことになった判断材料は何を基に出したのか。

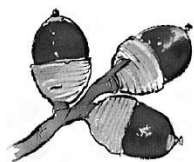
避難勧告・避難指示 地域別体制図るべきだ

町長 地域の限定考えて

たびたび避難勧告を出す
と町民も慣れてしまっ
心配がある。避難勧告、
指示は、地域別に出せる
ような体制を図るべき
だ。

堀見町長 夜中1時に災
害対策本部を立ち上げ、
県の雨量計、柳瀬川の水
位計、気象台の情報を総
合的に加味し、夜中の避
難は危険も伴うことから
夜明けとともに避難勧告
を出した。

今後は、災害の種別に
応じて細かく地域を限定
し、避難勧告が出せるか
考えていく。



雨量計システム 引き継ぎされていたのか

総務課長 今後しっかり引き継いでいく

町内各地区に設置して
いる雨量計のデータで勧
告を出す時間的な判断が
できたとされるが、7
月より故障していた。防
災行政無線施設の雨量計
システム機器の引き継ぎ
はされていたのか。

横山総務課長 担当との
引き継ぎができていなく
て、情報を得る機器があ
りながらうまく使うこと
ができなかったことは、
誠に申し訳ない。すぐに
修理し、データや機器の
使い方等を引き継いでい
く。



作動しなかった雨量計システム

災害時避難所施設の 収容能力は十分か

総務課長 全町民なら不足

みぞうの大災害が起き
た場合、全町民対象の避
難施設の収容能力は十分
か。

旧佐川中学校が避難所
に指定されていた地区民
の、避難場所はどこにな
っているのか。

横山総務課長 拠点避難
所として13カ所を指定し
収容可能人数は現在、2
750名となっている。

緊急避難場所の地区集
会所を総合して2600
人で、指定されていない
佐川高校を入れても合計
で6000人だ。全町民
が避難すれば足りない。
どう対応するか考えてい
く。

旧佐川中学校の避難場
所はまだそのまま設定さ
れていると思われる。



拠点避難所の佐川中学校体育館

土砂崩れ、農業関係等の被害はどうか。
緊急時、町外から通勤している職員はどう行動するか。長時間にわたる職員への配慮は十分なのか。

台風12号・11号の被害状況は

産業建設課長 被害総額 約2億円だ

今橋 寿子 議員



渡辺産業建設課長 町道31件被害額5990万円、河川災害23件3320万円、がけくずれ住家防災事業10件7800万円、農業施設関係44件2700万円、農地災害20件2000万円だ。
堀見町長 職員はまず自分の命を守り、次は家族、地域を守る活動をしてから役場に参集すると決まっている。南海トラフ地震が起きたときも県下全域がそういう対応になっている。職員への配慮はもちろんです。



31カ所の町道が被害を受けた

地区懇談会の取り組みは十分か

チーム佐川推進課長 工夫し参加促す

総合計画策定に向けて21カ所のチクコン（地区懇談会）はよい取り組みだと思いが、参加人数が少ないのではないか。住民には、チクコンの意図が十分理解されているのか。
片岡チーム佐川推進課長 地区によって参加者の差がある。全体的な流れは、このままで進める。広報や呼びかけのチラシ等は一工夫しながら自治会長にも協力を要請する。また職員にも参加するよう促している。

町に分譲地の状況はどうか

総務課長 価格見直し販売

分譲地についての現在の状況はどうか。
町長は、移住促進、自伐型林業に取り組んでおり、県は健康長寿県構想で、木造住宅は健康によいとしている。健康住宅等のモデル住宅構想はあるか。
横山総務課長 小富士団地の分譲地は価格を見直し、12月1日をめどに販売を開始するよう準備を進めている。

その他の質問
○輝く女性応援会議について。

堀見町長 現時点ではモデル住宅構想はないが、住宅と木の流通という部分で地元の産業振興に結びつけていきたい。



町内各地で開催されている地区懇談会



片岡 勝一 議員

高齢者の 免許返納の推進を

町長 広報で周知する

高齢者の交通事故が増加している。高齢運転者の事故を未然に防ぐため特典を付加して免許返納の推進はできないか。
また、広報誌などで繰り返し周知できないか。
横山総務課長 本町では免許返納者への特典付与は行っていない。
運転免許の自主返納サポート事業が全国的に広がっている。本町でも1社が乗車運賃半額サービスをを行っている。
佐川署管内では免許返納者が増加傾向である。
免許返納に対しては広報で周知していく。

霧生関の火薬庫 安全強化で多用途に

産業建設課長 保安距離の適用除外はできない

火薬庫は許可を受けての建造物であり撤去してほしいは筋違いだ。さらに二重三重にも強固な防護壁を作れば多用途に利用可能ではないか。



霧生関の火薬庫

産業建設課長 火薬庫安全強化策について、県に相談した経過があるが、さらに強化することで保安距離の適用除外はできないと回答を受けている。
保安距離のいらないヘリポートの設置を計画している。

愛玩動物の 不妊手術への助成を

町民課長 県の事業がある

動物を飼い主の都合で捨てる人が後を絶たない。

10万匹超の犬猫が殺処分されているという。動物の繁殖を制御しながら飼育するべきで、最後まで看取るのが本当の動物愛だ。不妊手術への助成はできないか。
麻田町民課長 本町には助成金はないし、予定もないが、高知県の事業として、雌の飼い猫6千円、捨て猫1万円の補助がある。県では来年度も予算要求する予定と聞く。
動物の終生使用等は町広報で啓発を行う。



ペットの飼育には最後まで愛情を

黒岩にふさわしい 保育所新設を

町長 要望を聞いて進める

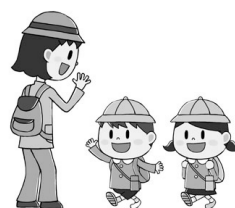
保育所用地はほぼ確定した。保育所建設に関しては保護者や保育士の意見を聞いて黒岩にふさわしい保育所の建設をすべきだ。町長はどう考えるか。

堀見町長 新設については、保育所に勤めている職員、地元の方、子供たちのことを考慮し要望をしっかり捉えた建物の作り方、計画が大切だと思う。そういう方向で、新しい保育所の建設について進めていきたい。



移転予定の黒岩中央保育所

西村
清勇
議員



玉割小橋西側の 交差点改良どうする

産業建設課長 来年度、実施予定だ

玉割小橋西側の、農免道路に接続する交差点の改良工事はどうなっているか。地権者との話がつかないのか。

渡辺建設課長 この交差点は、関係者と用地協議し、国の交付金事業を導入して実施したい。来年度にできるように最善の努力をする。

黒岩地区に ヘリポート基地を

総務課長 工事へと進めたい

今年度、ヘリポート基地を作る予算を組んでいる。黒岩地区にも良い土地があり提案した。ぜひ早期に基地を作ってほしい。

横山総務課長 中野地区の農免道路沿いの土地はどうかとの提案を受け、航空隊のパイロットに確認した。周辺環境ともに申し分ない。黒岩地区の中心ともいえる良好な位置である。今後は地権者との交渉、設計、工事へと進めたい。



交差点より玉割小橋に向かって



防災メールの導入を (平成25年9月定例会)

災害時の情報伝達手段は、幾重に重ねてもやりすぎはない。町から独自の情報を発信することができる「防災メール」システムを構築すべきだ。
(松浦議員)

総務課長 答 弁

前向きに検討したい

災害情報の伝達手段の多重化、多様化の重要性が指摘されていることから、「登録制メール」の導入について検討したい。

26年内本格運用へ

平成26年内にシステム及びホームページ等の環境を整備し、町職員等の登録・運用試験を行った後、町民への登録募集を開始、本格運用に入る。

どう
なった

あの質問のゆくえ

No.31

住民の皆様へ

9月2日付けで松本正人氏から議員辞職願が提出され、同日付けで辞職を許可いたしました。これは、8月30日に松本氏が道路交通法違反で摘発されたことを受け、本人から辞職の申し出があり許可したものです。法のもとで活動している議員の不祥事に関し、議会といたしまして、大変遺憾であり、町民の皆様に対しまして、深くおわびを申し上げます。今後は議員全員、一層身を正し行動してまいりますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

佐川町議会
議長 藤原 健祐

あなたが選んだ議員の 仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は12月5日(金)午前9時
開会予定です。傍聴においでください。

編集後記

今年の10月で議会議員として、また、広報委員として1年目を迎えました。「議会だより」を編集するようになった、人に活字で伝えることの難しさを痛感しています。議会が発言される沢山の言葉を、短く簡潔に正確に伝える、発言者の真意がくみ取れているだろうか、短い言葉でしっかり伝えられているだろうか、毎回の作業の中で不安は尽きません。

でも、一番の不安は住民の皆さんにしっかりと届いているのかどうかであり、ここが最も重要なところだと思います。私たちの住む町の未来が、指導者によってどのように考えられ、議会でどんな議論がされ、どのように決定しているのか、佐川町住民の一人として共に考えていく必要があると思います。

議会を傍聴に来られない皆さんに、私たちの町の進む方向を伝える広報です。どうか関心をもって一緒に考えていきましょう。次世代へつなぐ佐川町の未来のために。

下川

議会広報編集委員会

委員長	森 正彦
副委員長	片岡 勝一
委員	邑田 昌平
委員	坂本 玲子
委員	下川 芳樹

※わかりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見をお寄せください。

地域で がんばる



川崎さんと永田さん

わがまち佐川には、地域のために活動している組織やグループがあります。その皆さんにスポットを当てて紹介します。
今回は、黒岩いきいき応援隊長の永田滋さんと事務局長の川崎まりさんにお話をお伺いしました。

黒岩いきいき応援隊

— 会の目的は何ですか。 —

名前のように、黒岩地区みんながいきいき暮らしていけるように応援するということです。

— 具体的にはどんなことをしていますか。 —

今ある伝統芸能やイベントなどが続けていけるように、そして今以上に盛り上がるように応援しています。

たとえば道案内用の「ようこそ黒岩へ」の桃太郎旗を作って、各イベントへ貸し出しをしたり、一年間のイベントカレンダーや通信を黒岩地区に全戸配布しています。



— 今取り組んでいることは何ですか。 —

敬老会をやってほしいとの声があり、久しぶりに復活させようとみんなが頑張っています。



黒岩いきいき応援隊のメンバー
津野町への研修

— 集落活動センターの立ち上げに向けて頑張っていると聞きましたが、どんな拠点にしたいですか。 —

思いはいっぱいありますが、みんなでよい方向に進めていく活動拠点となればいいなと思っています。

— 具体的にはどんな活動をしたいですか。 —

黒岩地区では果物、野菜、お米、お茶、酪農など農業で頑張っている家庭が多くあります。若い後継者も育っており、加工品も作っています。加工所が地元であればもっと多くの方が参加でき、収益や生きがいにつながっていくと思います。

また子供から高齢者の方が集まる場面と場所を



防災訓練での炊き出し

つくって、元気に楽しく暮らしていけるようにしたいです。

— 今後の抱負は。 —

住んでよかった、住みたい黒岩とみんなに思ってもらえるようにしたいです。地域のつながりを大切に、みんながいきいき暮らせる黒岩になりたいですね。

— どうもありがとうございます。 —

たくさんの方が力を合わせて頑張っている姿が素晴らしいと思います。

黒岩いきいき応援隊の活躍を期待します。

あなたの周りに、佐川のまちの元気のために活躍されている「組織やグループ」をぜひ、ご紹介ください。